

令和4年度

32th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入賞作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
協賛 宮城県写真商業組合

入 賞 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	日の出とともに	佐藤 浩章	福島県南相馬市
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	日の出と共に	佐々木 朋子	石巻市桃生町
金賞 (栗原市長賞)	ミサゴの狩り	佐藤 直樹	登米市迫町
金賞 (登米市長賞)	夜明けの雁行	伊藤 利喜雄	岩手県一関市
銀賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	ひと休み	高橋 徳雄	栗原市築館
銀賞 (登米市観光物産協会会長賞)	夜明けのパラダイス	千葉 学	大崎市古川
銀賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	万雷の喝采	遠藤 宏昭	仙台市青葉区
銅賞 (河北新報社賞)	緊張の瞬間	三塚 東	栗原市鶯沢
銅賞 (読売新聞東北総局長賞)	珍客飛来	佐藤 林一郎	栗原市築館
銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	力くらべ、(争う！)	庄子 源六	仙台市若林区
銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	感動の朝	森谷 勇	塩竈市千賀の台
入選	テリトリーの争奪	小野寺 浩一	岩手県一関市
入選	朝靄に光り射す刻	今野 千賀子	大崎市古川
入選	朝陽をうけて	日野 俊文	宮城郡七ヶ浜町
入選	パクッ	阿部 健司	石巻市あゆみ野
入選	一触即発からの!!	小野寺 俊一	千葉県千葉市
入選	金色の楽園	佐々木 甚彦	宮城郡利府町
入選	喝 采	高田 毅	福島県南相馬市
入選	飛翔 ^{ひしょうすだい} 壮大	刈谷 孝也	仙台市青葉区
入選	気嵐の朝	遠藤 芳雄	仙台市宮城野区

総 評

コロナ禍3年が経過しても未だに猛威を振りそれに耐え忍んでいるところ、鳥インフルエンザや大雨による増水被害など災難が連続して伊豆沼・内沼の自然にも押し寄せてきました。かけがえの無い自然が悪い方へ変化してしまう事への不安が増してきます。その中で、今年もたくさんの作品が届きました。朝日バックのマガンの大群の飛翔の作品は数多く、迫力あるものが上位に食い込んでいます。残念ながら、夏の増水によりハスが全滅してしまったためハスの作品は一つもありませんでした。また、マガンやハクチョウなど野鳥の作品以外が少ないのは、イベントが中止や縮小されるなどコロナ禍の影響があるのかなと感じています。写真は美しい自然を記録し、多くの人へ伝えることができる素敵な手段です。今年も感染予防をしっかりとした上で、伊豆沼・内沼の自然に触れ撮影していただきたいと願います。

フォトコンテスト審査員 井村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チャーター保護基金ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』
『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer
Jun Imura's website)



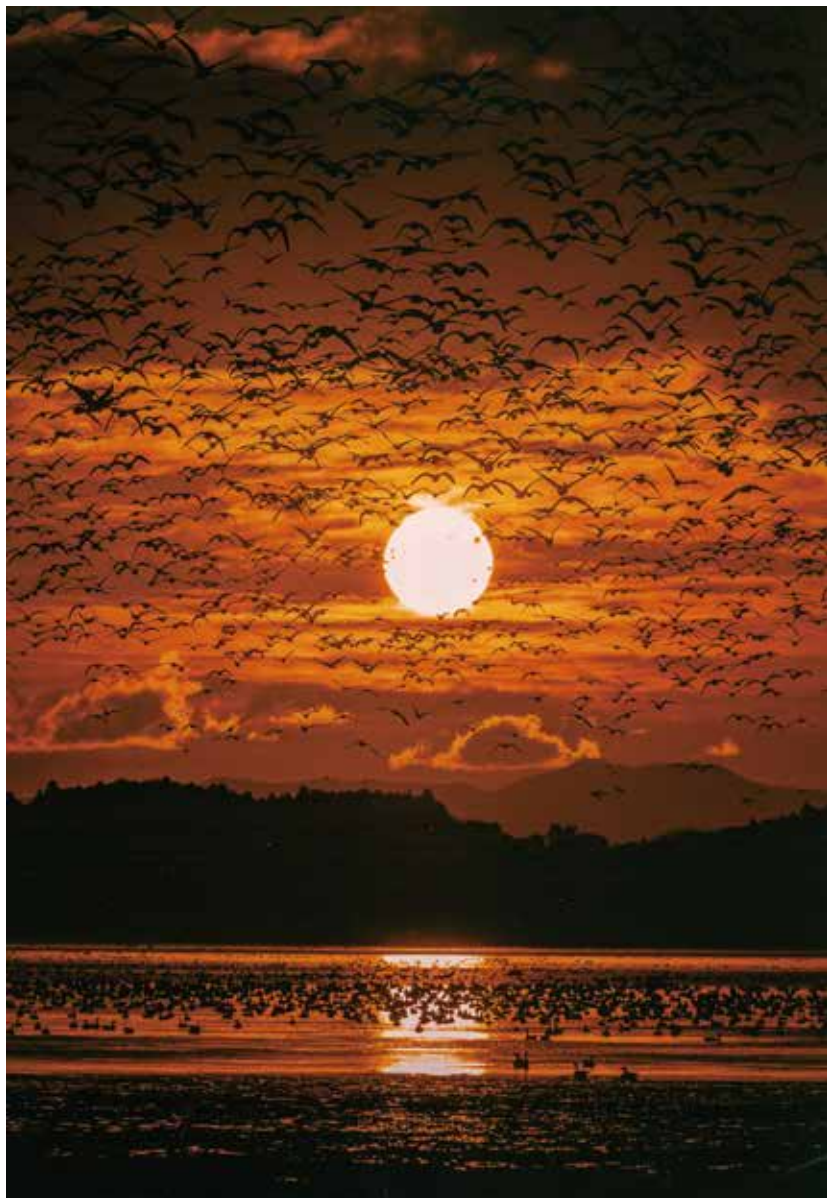
【評】伊豆沼といえば朝日バックのマガンの飛翔と言える代名詞的な場面ですね。太陽をでっかく大迫力の中、ドッカンという飛翔の瞬間を重ね合わせたなんとも見事な光景です。太陽を大きく写すためには超望遠レンズで狙う必要がありますが、そうすると画角は狭く、マガンの群れが太陽と重なる確率も少なくなり、被写界深度も浅くなる中、強い光の背景でピント合わせも至難の業と言える状況であったことも考慮すると、この一枚は脱帽の一言です。



【評】自分の体と同じくらいの大きなフナをガッチリと掴んで飛んでいるミサゴの姿をシャープに捉えた素晴らしい作品です。背景はシンプルに何も無い水面で主役がくっきりと浮かび上がっています。ミサゴの表情もドヤ顔に見える気がします。構図的にもう少し左に空間があれば、4切ワイドまたは4切ノートリなどで見てみたいです。

優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）「日の出と共に」

佐々木朋子



【評】朝日背景にマガンの群れが飛び上がった瞬間で、縦位置構図のものは過去にも少なく、今回も全応募作品の中でも唯一でした。人間が横長に物を見ていることから縦位置構図は新鮮に感じるのですが、構図として切り取るのは難しいです。さらに動きの瞬間では特に難しいものです。日の丸構図で緊張感もあり、空間いっぱいにマガンのシルエットで埋め尽くしているのが迫力です。

金賞（登米市長賞）
「夜明けの雁行」

伊藤利喜雄

【評】曇っていても東の空に隙間があれば朝日は差し込みますね。飛んでいるマガンの羽の下が照らされて反射していますが、これは太陽が低いほんの短いタイミングです。背景が雲だったので青味が強く見え、また、暗めなのでマガンの羽の反射が強調されています。手前のヨシ原と空の比率などバランスよくフレーミングされています。



銀賞

(栗原市観光物産協会会長賞)
「ひと休み」

高橋 徳雄

【評】 ユーモアを感じる作品です。これはコミミズクでしょうか。この個体が伝えたい言葉のように、看板をうまく取り入れた構図が面白いです。このコミミズクがなんらかのご迷惑をおかけしているのでしょうか。獲物となる小動物へのメッセージなのでしょう。キリッとしたきつい表情が目をはきまします。



銀賞

(登米市観光物産協会会長賞)
「夜明けのパラダイス」

千葉 学

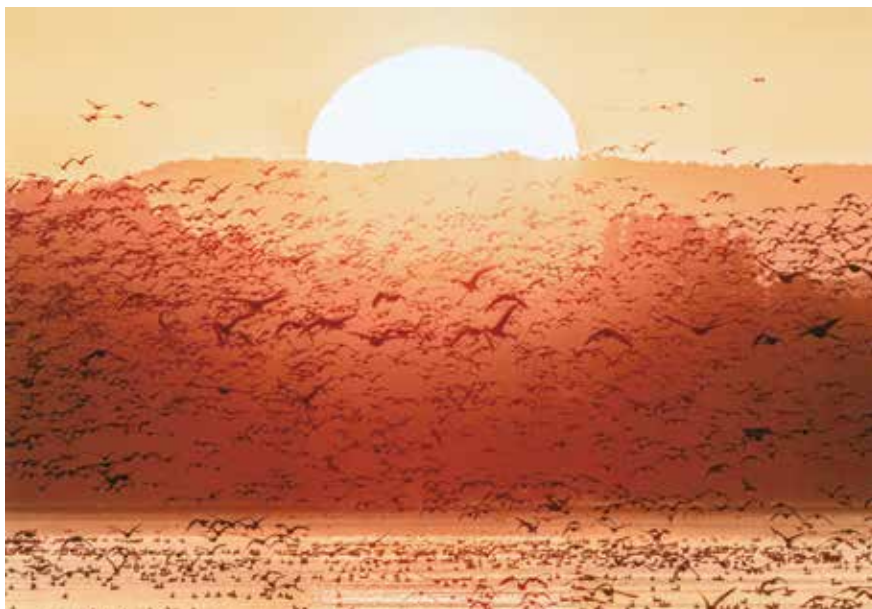
【評】 日の出前でしょうか。静かな水面を七羽のハクチョウが一行に泳いでいる場面ですが、焼けた空と映り込みの水面の色がとても幻想的で、おとぎ話の世界に引き込まれていくようです。最後の1羽が少し遅れ気味に見えるのも気になって面白いです。若干彩度を抑えるとリアリティが出てきてさらに良いと思います。

銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)
「万雷の喝采」

遠藤 宏昭

【評】 大きな太陽と一斉に飛び立つマガンのタイミングがバッチリで最高の場面です。最優秀賞の場面と同じ日でしょう。マガンのボリューム感は文句無く素晴らしいです。惜しかったのは、この構図でしたら太陽の両サイドの空間にもう少しマガンが欲しかったです。また、全体に露出が明るく優しくなっていたことです。



銅賞（河北新報社賞）
「緊張の瞬間」

三塚 東



【評】 マガンを狙ってか、群れの中にキツネが一匹侵入してきた珍しい場面ですね。キツネは何かを狙っているような姿勢です。キツネの奥の群れはキツネとの距離を保ちながら移動しているでしょう。画面左寄りの波紋が残る水の中を歩いている瞬間でしたらもっとキツネが強調できたかもしれませんね。

銅賞（読売新聞東北総局長賞）
「珍客飛来」

佐藤林一郎



【評】 コミズクがこちらに向かってくる正面の飛翔姿が逆光の光線の中、格好良く捉えられています。こちらに向かってくる被写体はピントを合わせるのが難しいと思いますが、丸い顔がくっきりとシャープに描写されているのがとても良いです。水路際を低く飛んで獲物を探しているのでしょうか。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）
「力くらべ(争う!)」

庄子 源六



【評】 数羽のオオハクチョウが喧嘩をしている迫力の瞬間です。普段は優雅な動きのハクチョウですが、この時はとても素早い動きをします。水飛沫も含めてブレていないことから、かなり速いシャッター速度にしている、ピントもセンターのハクチョウの顔に合わせ緊張感が表現されています。

銅賞（毎日新聞仙台支局長賞）
「感動の朝」

森谷 勇



【評】 太陽バックのマガンの群れの良い作品は運が大きく、天気と飛び方とタイミングを祈るしかないですね。この作品は頭上に程よく点在する雲が朝日で焼けているところまで画面に取り入れたのが良いです。また、白飛びして輪郭がなくなってしまうがちな太陽も形よく捉えられています。

入選 「テリトリーの争奪」

小野寺浩一



【評】 カラスは自分よりも体の大きな相手でもテリトリーに入ってきたものは攻撃するのですね。この写真は、カラスが降下しながらスピードを上げて追いかけている様な瞬間が捉えられています。前を行く猛禽類の表情も見えて面白いです。

入選 「朝靄に光り射す刻」

今野千賀子



【評】 マガンの一斉の飛びたちと一味違って風景としての構成が素敵です。半島の様に飛び出している左下のシルエットと薄く雲に遮られた朝日とのバランスの取れた構図に、逆光に色付く靄が幻想的な演出となり風景写真としての完成度が高く高評価です。

入選 「朝陽をうけて」 日野 俊文



【評】朝日を逆光に受けてハクチョウが着水する美しい瞬間です。広げた羽が光を透かして、飛沫も逆光に光って、光をうまく捉えています。色味ですが赤みが強くややリアルティに欠けてしまいます。また、気になるのはプリントが若干縞々です。

入選 「パクッ」 阿部 健司



【評】シラサギが小魚をハンティングした絶好のチャンスですね。飲み込みやすいようにくわえ直した瞬間で小魚が宙に浮いているのが目を引きます。若干シャープネスが強くなりすぎているのでしょうか、輪郭がカリカリに見えます。

入選 「一触即発からの!!」 小野寺俊一



【評】カモの睨み合いでは無く、すでに一触しているところですね。なのでタイトルが「~からの」なのですね。この後、即発したのでしょうか。紙の比率が正方形に近いので断ち落としのプリントで左右が詰まってしまったのがやや惜しいです。

入選 「金色の楽園」 佐々木甚彦



【評】画面が二分割されてしまう構図ですが、この場面はこの構図が面白いです。中央の太陽が空間を繋いでいるのでしょうか。2つがいのハクチョウにそれぞれ動きがあり良い瞬間です。また、暗い背景に逆光で降雪が浮かび上がっています。

入選 「喝 采」 高田 毅



【評】やや太陽が高めに昇ってから一気に飛び立った場面ですね。太陽の光が強すぎて、輪郭を出すことは難しい条件だと思います。広めの構図なのでそれはあまり気にならずに空のグラデーションがきれいに見せられたと思います。

入選 「飛翔壮大」 刈谷 孝也



【評】色付いた空をマガンが群れで飛んでいる心象的な光景です。ポイントになる木のシルエットと手前の水面にはハクチョウがいて、マガンの程よい群れと画面構成がとても良いです。暗めの露出設定が心象的な雰囲気となりました。

入選 「気嵐の朝」 遠藤 芳雄



【評】冷え込んだ朝に現れる気嵐を背景にマガンの群れの飛び立ちが浮かび上がりました。暗い背景ではマガンが同化してしましますが、気嵐の現れる日ならではの狙い方です。その分暗めの露出設定ができ、太陽や色味がきれいに表現されています。